

第4回我孫子市部活動地域移行検討委員会 議事録

1. 会議名称	第4回我孫子市部活動地域移行検討委員会
2. 開催日時	令和6年5月16日（木）17時30分～19時30分
3. 開催場所	我孫子市教育委員会大会議室
4. 出席者	<p>【委員】 藤原委員長、鈴木副委員長、中村委員、近藤委員、 川端委員、藤間委員、川田委員、上坂委員、吉川委員</p> <p>【事務局】 丸教育長 菊地生涯学習部長 山田教育総務部長 （文化・スポーツ課）辻課長、永田課長補佐、清水係長、斉藤係長、四家主任主事、五十嵐主任主事、松永主任主事 （指導課）森谷課長、小山指導主事</p>
5. 議題	（1）アンケート結果について （2）部活動地域移行「実証事業」について （3）その他
6. 公開・非公開	公開
7. 傍聴人	2人

内容：

○開会の言葉

○教育長挨拶

○委員長挨拶

○議題

○今後の検討委員会日程

○閉会の言葉

○議事録：

(事務局)

ただいまより、第4回我孫子市部活動地域移行検討委員会を始めたいと思います。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日の会議は委員の過半数が出席のため、会議が成立することになります。最初に資料の確認をさせていただきます。各席に配布しています資料ですが、次第、我孫子市地部活動地域移行検討委員会の委員名簿、我孫子市部活動地域移行について(案)【令和6年度実証事業】、第4回部活動地域移行検討委員会指導課資料となります。足りない資料があれば申し出願います。

それでは、次に丸教育長より挨拶をさせていただきます。教育長よろしくお願いたします。

-丸教育長挨拶-

皆さんこんにちは。お忙しい中、第4回の部活動地域移行検討委員会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。皆様方には、これまで3回にわたり、我孫子の子どもたちのために議論を重ねていただき、厚く御礼申し上げます。

昨年8月上旬、第1回検討委員会の際に、本市の生徒数の減少が見込まれていることから、これまでの部活動は維持することが難しいというお話をしました。やはり本年度5月1日基準日になるわけですが、中学生が昨年度は2884名だったところ今年度は2777名ということで、107名の減というような状況でございます。

また、少子化となっても生徒たちが希望する活動ができる環境を整え、支えていきたいというのが私の一番の願いです。ということをお話したかと思えます。

部活動の地域移行は、まずは子どもたちのために行うものでございます。現在、教員の負担軽減や教員の働き方改革の実施の推進とよく言われます。

そのことを第1に掲げるのではなく、やはり子どもたちのためというところをしっかりと押さえていきたいなと思っています。しかし、部活動の地域移行が進めば確実に教員の働き方っていうのは改善されるというふうに思っております。

今の学校現場、忙しすぎて子どもたちに寄り添う時間が本当に少ないというふうに感じてます。このような環境になってしまったのはなぜか。やはり社会が学校に求める

ものが多すぎるといふところだろうと私は思っています。家庭教育で行うべきこと、社会全体で取り組むべきこと、やはりそれが小学校、中学校で行う。そういったところがどんどん膨れ上がって、私の頃にあった教育、今は3倍から4倍です。それを全て学校が取り組んでいる。これは、忙しいのは当たり前だろうというふうに思います。

今は、教員の職業がブラックとか定額働かせ放題、そんな言葉も出てます。これで誰が教員を目指すでしょうか？やはり、これは考えていかななくてはならない。

申し訳ございません。私は、そういうことに関してちょっと熱くなってしまうものですから、この話をしていると30分40分話をしてしまいます。この辺にしておきます。

私は、部活動の地域移行に関しては、できるところから進めていきたいと8月にもお話ししましたが、そのために部活動指導員を今年度は30名を目標に入れました。来年度再来年度に当たっては、部活動指導員（指導者全体として）は60名から70名にしていきたいというふうに思っています。その中で、地域クラブを設立していくということができればなと思っています。今年度、国や県の実証事業を行います。そういったことを活用しながら進めていきたいなと思っていますところでは。

4月末に関東甲信越地区の都市教育長の協議会がありました。その中で議題になったのは、いじめ不登校はもちろんですが、この部活動の地域移行に関するお話がありました。どこの町でも、それぞれ課題があって模索しているので、できてるところも同じ市の中でもいろんなやり方があると聞いてきました。

ただ私は、場当たりの対応はまずいんだと、やはり持続可能な部活動の地域移行ということを考えていかないと進んでいかないと進んでいかなさうなと思っています。

ぜひとも皆様方には忌憚のない意見を言っていただきながら、実現に向けて進めていきたいと思っておりますので、何卒ご協力よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、私からの挨拶とします。今年度もよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは次に、委員長挨拶となります。藤原委員長ご挨拶をお願いいたします。

-藤原委員長挨拶-

はい、皆さんこんにちは。前回までの3回の会議で、私は基礎研究が終わったというふうに申しあげました。今日から実質的に地域移行に向けた内容になってくると思います。皆様にご意見を頂戴しながら進めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお、本日は傍聴の方がお2人いらっしゃいます。会議の最後に、傍聴の方の発言の機会を設けます。傍聴の方で発言したい方がいれば、1人1回3分以内の発言となりますので、よろしくをお願いいたします。

次に、要綱第6条により委員長が会議の議長となります。議事に入る前に皆様にお願ひがあります。当会議の議事録を作成する必要があるため、発言をする際は、前にあるマイクを通して話していただきますようお願いいたします。発言する際は、まずマイクのボタンを押して、ランプが赤く点灯したらお話ください。よろしくをお願いいたします。

それでは、これから議事に入ります。前回の検討委員会では、実証事業を行うことについてご了承いただきましたが、今回は議題の2番において、その内容についてご確認ご了承いただければと考えてます。

それでは、議事進行を藤原委員長をお願いいたします。

(藤原委員長)

それでは、改めまして皆様よろしくお願い申し上げます。議題に沿って進めて参ります。まず、(1)でございます。アンケート結果について事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局(指))

はい。指導課の小山です。よろしくお願い致します。指導課では、中学校部活動等の調査、部活動指導員ボランティアについて、説明させていただきます。

まず、中学校部活動の部員数等の調査についてです。部員数の詳しいものは、別で一覧になっているものをご覧いただければと思います。

5月1日現在の中学校生徒在籍数が2777人です。そのうち2381人85.7%の生徒が部活

動に加入しています。加入率は、令和5年度とほぼ同数ではありますが、令和3年度は90.8%でした。この3年間で約5%程度減少をしていますが、依然として80%以上の生徒が部活動に加入しており、一部休日に活動していない部活動を除いても2000人以上が休日に部活動を行っているということがわかっております。

我孫子市も少子化によって、中学校生徒数が令和5年度5月2884人から今年度は107人減少していることもありまして、10人以下の部活動も多くなっております。10人以下の部活動については、指導課の方の資料の1枚目に、学校および部活動の名前を入れさせていただきました。

夏の総合体育大会や最後のコンクール等で3年生が引退し、2年生1年生だけになるとチームとして活動ができない部活動もあることが予想されます。そのような中、湖北台中学校では、野球部を廃部するということが、この夏の総体をもって決まっております。もう既に、新しく1年生の入部がないということになっております。また、休日の中学校部活動が地域に移行した際、希望する教員も兼業で地域クラブ指導者となることが予想されますが、参考までに、日本スポーツ協会や各競技団体の公認の指導者資格を保有している教員の調査をしました。そのところ、全部合わせても19名。競技によって、その資格取得についての取り組み状況は様々な状況になっております。

次に、令和5年度から各中学校に配置している部活動指導員について説明をします。一覧でボランティアの方々と合わせて、学校と部活動について記載したものが資料に載っておりますのでご覧ください。

今年度も国と県から補助を受け、最大30名分の予算を確保しました。4月から23名、この6月から1名を追加して合計24名を全中学校に配置しております。配置した中学校の内訳は、資料の通りとなっております。新規で任用した方は、これまでボランティアで指導に当たっていた方や、令和5年12月の部活動指導員の説明会に参加していただき、1月から各中学校でボランティアとして活動した後、中学校長の承認を受けて指導課で任用し、配置をしております。

部活動指導員の配置を進めることで、文化・スポーツ課よりこの後、説明される実証事業の指導者さらに地域に移行した際の指導者として、活躍することを想定しております。また、部活動の調査では、部活動指導員やボランティアの指導者の希望として、学校部活動に指導に来てほしいかというところも調査をしております。資料の中

学校部活動調査、部活動指導員・ボランティア指導者の希望について、というのをご覧ください。

希望のある学校へ指導者の派遣を進めていくために、スポーツ協会等と連携し指導者のマッチングを図っていただけたいと考えています。なお、4月より私の方で各学校を回り部活動指導員の勤務状況の視察を行う中で、配置されていない部活動の顧問の先生方からも技術指導できる指導者はいませんか？という声をいただいています。令和5年度と同様に小中学校の保護者への説明を行い、指導者の発掘を進めていきたいと考えております。

以上となりますが、今回の調査結果も地域移行を検討していく上で参考にさせていただけたらと思います。以上です。

（藤原委員長）

はい、ありがとうございました。ただいまのアンケート結果の説明について、ご意見ご質問はございますでしょうか？

部員数が10名以下の部のお名前が出ておりますが、なかなか厳しいですね。これはもう単独でやるというのはなかなか難しいなというのが、これを見てもわかると思います。いかがでしょうか？

（中村委員）

すいません。中村ですけども、ボランティア指導者の希望についての用紙を今見てるんですけども、今具体的に学校回っていただいて、指導者が欲しいというふうに意思表示をされている学校と部活動はこれで全てですか？

（事務局（指））

はい。今回、ゴールデンウィーク明け締め切りで4月から調査をしております、資料の一番右側のところですが、部活動の指導員やボランティアの指導者の希望というところの希望の有無「是非部活動指導員を配置してほしい」あるいは「ボランティア指導員で構わないので配置してほしい」というところで上がってきた学校部活動はこの一覧が全てとなっております。

（中村委員）

ということは、逆に言うとこれ以外の学校では希望していないと捉えるのではなく

て、まだ要望を出してないと捉えるのが正解でしょうか。それとも、とりあえずここにあるものを潰していけばいいと考えればいいんでしょうか？

(事務局 (指))

現時点では、「部活動指導員の配置を希望する」「ボランティア指導者の配置を希望する」「現在のところ希望はしない」というこの3択で選択していることになっているので、現時点では、指導者を入れてくださいという要望はここに載っている学校部活動以外はないということです。

(中村委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(藤原委員長)

その他いかがでしょうか？それでは、先に進めさせていただいてよろしいでしょうか。それでは、議題の2番でございます。部活動地域移行実証事業についての説明をお願いいたします。

(事務局 (文))

はい。実証事業について私から説明させていただきます。文化スポーツ課の四家と申します。資料については、ホチキス留めのこちらの資料になります。我孫子市部活動地域移行について(案)というふうに記載されているものが資料になりますので、こちらに基づいて説明させていただきます。

まず、上から一つ目二つ目の丸に関しては、今まで地域移行する目的や背景を記載しているものになりますので、こちらは割愛させていただきます。

丸の三つ目、我孫子市における部活動の地域移行になりますけれども、前回の検討委員会でご承認いただいた基本理念、基本方針に基づいて文化、それからスポーツそれぞれの部活動をまずは休日から、こちらを段階的に地域に移行するという事になっています。その中でも、令和6年度に関しましては、運動系の部活動の数部活において実証事業として地域に移行をしていく予定となっております。実際の実証事業の内容について一番下の丸、実証事業になります。こちらについては、千葉県の委託事業として令和7年3月5日までを期間として行っていく予定です。開始時期につきましては、多くの3年生が夏を区切りとして部活動を引退する9月から開始をしていく予

定です。

今回の実証事業では、令和7年度以降これからどういうふうに進めていくかっていうことを検討していくことになるんですけども、そのモデルケースとしていくため、今回の事業を通じて管理方法であったり、諸課題の検討を行っていく予定です。

最初の一つ目、(1)の対象部活動になります。

今回の実証事業は、令和7年度以降も地域のクラブとして活動することを前提として対象の部活動を選定する形になります。基準の一つ目としては、先ほど指導課の方からも説明があった通り、今年度24名の部活動指導員が入って活動するような形になるんですけども、その中でも大会の引率であったり、クラブの管理というものを全てお任せできると判断できる部活動について対象とする予定です。二つ目の基準としては、既に地域クラブとして実際に活動しているクラブの中で、部活動の地域移行の受け皿として適切であると判断できるクラブになります。

次に、2ページ目に行ってください、(2)の受け入れクラブの募集、選考になるんですけども、どういう形で選定をするかというところになります。

まず、今年度については実施可能な部活動を1から4部活程度として選考します。ただ、予定でありますので、1部活になることもあれば4部活以上になるということもあり得るかと考えています。現在の部活動指導員の方を除いて、受け入れ先となるクラブであったり、指導員の選定方法としては、ここに記載している1から3が挙げられます。

まず、①の推薦については、スポーツ協会やスポーツ少年団からの推薦になります。こちらについては、活動内容であったり、どのようなクラブであるかという概要を市の方でも把握しておりますので、適切であるのかなと考えています。

次に、②の公募については、地域移行の受け皿として手を挙げてもらうような形になりますけれども実証期間中においては、まず選考に時間を要することそれからまだ現時点で令和7年度以降どのような形で進めていくかということも固まっていませんので、今この状況下の中では、公募して実証事業を進めていくというのは適切ではないのかなというふうに考えています。

最後に、③直営になりますが、こちらクラブの活動を全て市の方で管理しながら進めていくものになっていて、指導者については休日に指導に当たるだけのパターンにな

っていて、今後の持続可能性というものを考えていくと少し難しいのではないかなというふうに考えています。以上のことから今年度の実証事業については、①の推薦というものを基本として進めていければなというふうに考えております。

続いて、(3)の指導者についてです。

まず、①の指導者の謝金支払条件と書いてあるんですけども、指導者としてお願いする上での条件というような形になっていて、1時間2000円程度を想定しています。活動時間については、1日3時間、月4回であって、こちらは部活動のガイドラインに則ったものになります。現在の活動指導員の報酬を上回る金額となっているんですけども、大会の引率であったり、安全面を含んだ生徒の管理等、これまでよりも責任が増えてくるというような形になりますので、金額が増えるということについては、特に問題ないというふうに思っています。ただ、この金額につきましては、今回実証事業の中で実施する部活動の数であったり、指導者の数によって今後多少の変更をするような可能性はあります。

次に、②想定される指導者になります。今年度想定している指導者は記載の通りです。一番多くなってくるのが、現在部活動指導員で活動している方になるのかなと考えています。

その次に、スポーツ協会スポーツ少年団からの派遣の指導者というものが多くなってくるのかなというふうに考えています。

これらの指導者としてお願いする際の条件なんですけれども、これまでの検討委員会のアンケート結果にもあった通り、現状顧問の先生方が指導にあたっている中で、そこから地域の指導者に変わっていくとなったときに、子どもたちへの接し方であったり、指導方法等を心配されている保護者や生徒が多くいるというような結果もありました。現在、市では毎年12月に我孫子市公認スポーツ指導者養成講習会というものを発行しております。こちらは、日本スポーツ協会の基礎資格であるスポーツコーチングリーダーというものに加えて、独自科目として、カリキュラムを設けています。

スポーツコーチングリーダーについては、スポーツ少年団であったり、学校運動部活動等において、安全安心で基礎的なスポーツ指導や運営に当たる方のための基礎資格とされております。今年度から、名称変更やカリキュラムについても、部活動地域移行に合わせた内容に変更されるということで案内があったところです。

このような日本スポーツ協会の基礎資格と市の独自科目を合わせて、地域移行に対応

できるカリキュラムとして今年度からは開催したいというふうに考えております。地域移行後のクラブの指導者に関しては、こちらをできる限り受講していただいて、保護者等が不安を抱えている指導者の質というものを確保していきたいなというふうに考えております。受けていただく方の範囲やカリキュラムについては、今後検討を重ねて実際に決めていきたいなと考えております。

続いて、(4) 実証事業に関する費用についてです。

基本的に、今回令和6年度の実証事業にかかる費用については、我孫子市の方で負担する形になります。

まず、①の謝金について、こちらの指導者謝金については、市の方で負担をする形です。どのように管理するかというのは、後でまた出てくる場所なんですけれども、連絡ツールというものを導入して、その都度アプリの方で報告をしてもらい実績に基づいてお支払いすることを想定しています。

次に、②の活動経費に記載している費用なんですけれども、これ以外にも細かいところを挙げればまだまだあるかなと考えているんですけれども、消耗品であったり、連絡ツール、それから保険等の費用も市の方で負担します。大会の参加費については、これまでもその都度必要な金額を保護者から徴収して参加している形になっていますので、そちらの方は受益者負担というような形になってくるかなと思います。

次に、(5) の管理体制についてです。

現在は、顧問の先生が担っている休日の管理事務の部分については、地域移行した際はクラブの指導者が担うような形になります。指導者と市や学校の役割っていうものを分けて記載しているのがこちらの表の通りになります。

まず指導、それから施設の管理、大会の引率というものは、地域クラブの指導員が担う形になりまして、保険の加入から一番下の各契約の事務の対応に関しては、今年度我孫子市が学校等と連携した上で担うことになっています。今年度の市の立場としては、各クラブをまとめる管理団体のような役割を果たしていくような形になります。

次に、3 ページ目になります。括弧6 実績報告についてです。

今回の実証事業を通じて様々な課題が出てくるかなというふうに思うんですけれども、そちらを検証していく必要があります。検証をしていく中で、活動内容等を報告していただきます。活動日ごとの報告それから月単位の状況報告、最終的には年間報

告として提出していただいて、次年度以降それぞれのクラブ、それから部活動地域移行全体の活動の進め方について反映をさせていただきます。

市とクラブ、それからクラブと保護者の連絡方法については、先ほど少し説明をさせていただいた連絡ツールアプリを導入してやろうかなというふうに考えています。このアプリも様々なツール、媒体があるんですけども、これを導入することによって、指導者の活動実績の管理が容易であることや保護者と生徒それからクラブ指導者の連絡体制が構築できること、そしてスケジュールの管理が容易になるようなことなどメリットが多く挙げられます。指導者についてもこちらのツールから実績に応じて、先ほど説明した通り支払いを想定しております。

次に、(7) 実証スケジュールになります。

実証の開始が9月からになりますので、6月から8月までは準備期間となります。この期間中に実証事業を始めるにあたって必要となる保護者への説明であったり、どこの部活動を地域移行させるかということについて、学校等との調整を図っていく予定です。9月からは実際に実証事業を開始しまして、3月5日まで続くような形になります。ただ、3月5日で地域クラブの指導員がすぐ部活動指導員に戻るわけではなく、あくまでも令和7年度以降地域クラブの指導員としてあたっていただける前提で進めたいと思っています。

この実証事業を通して先ほどから言っている通り、諸課題というものを検証して年間を通して次年度以降の進め方について検討をしていくような形になります。(7)までが、今年度行う実証事業についての説明になります。次ページ以降が現在想定されている今後の地域移行のイメージになります。今年度の実証事業を通じて、どういうふうに進めていくかという形を固めていくことにはなりますが、ある程度の想定、イメージを持って進めていくつもりです。

(1) の管理運営団体についてです。こちらは、今年度市が担うマネジメント的な役割の団体になるんですけども、設置するかどうかも含めて検証が必要になります。現在70以上の部活動がある中で、先ほど冒頭の説明の通り10人以下の部活動も多くあり、統合等により減少することが想定されていますが、それでも数多くの部活動がある状況は変わりませんので、実際に部活動地域移行した際に持続可能な体制を構築するためには、この管理運営団体が必要になることが想定されます。管理団体の想定されるパターンとしまして、まずスポーツ協会等の既存の組織が一つ挙げられます。あ

とは、市と協力団体、関係者によって新たに立ち上げる組織。それから今年度同様、我孫子市が直接マネジメントを担っていく。最後に民間企業に委託するパターンです。

こちらについては、隣の柏市等の事例であったり、今年度市が担う中でどれくらいの業務の種類、時間がかかるかというものを検証していきながらどうするかを検討していく必要があるのかなというふうに考えています。

管理団体の役割としては、こちらの表に記載の通りであるんですけども、先ほどの実証事業の中で説明させていただいた、今年度市が担う業務というものが中心になってくると考えています。

続いて、(2)のクラブの活動になります。地域移行後のクラブの活動に関しては、大きく二つのパターンが考えられるかなと思います。来年度に部活動指導員が入る部活もたくさんありますので、それは除いた形になります。まず一つ目は、この管理運営団体に属する形（ぶら下がるような形式）です。指導者および生徒に関しては、各クラブに所属するのではなくて、管理団体の所属というような形になって、各クラブ、部門には責任者を置いて運営をしていくような形になります。こちらに関しては、現在柏市が行っているものに近い形であります。このパターンですと、希望すれば一つの競技だけではなくて様々な競技に取り組むことも可能になるのかなというふうに思います。

二つ目に、既存の地域クラブのような形で完全に独立をした運営を行う形式です。ただ、全ての部活動で完全に独立したクラブにすることは、運営をする方であったり、指導者を確保していく観点からも、現在の部活動を全てクラブ化するのはかなり困難なのかなというふうに予想されます。二つのパターンが存在する形も考えられると思いますので、独立したクラブに関しては、地域移行の受け皿となるクラブとして認めて、活動場所を確保したり指導者や生徒を紹介できる仕組みというものが必要になってきます。ただ、その際には無条件で地域移行の受け皿として認めるっていうわけではなくて、ある程度の基準を作った上で認証制度というものを設けていく必要があるというふうに考えています。

続きまして、(3)の課題になります。まず①の大会の引率に関して、地域移行後は原則として顧問の先生ではなくて地域のクラブ指導員が大会の引率を行うことになります。ただし、当面の間は平日の活動も顧問の先生のもと学校の方で行われます。さらに、中体連主催の大会も継続されますので、いきなり全てお願いしますというわけには当面の間は、いかないのかなというふうにも思っています。あと大会の出場方法に

関しましても、クラブで出るのかそれとも学校で出るのかというところで引率の仕方も変わってくると思います。

令和6年度に関しては、クラブ単位で出る可能性ももちろんあるかなと思うんですけども、クラブで活動したとしても中体連主催の大会に関しては、学校単位で出ることが現実的かなと考えております。

続いて②番のガイドラインの兼ね合いについてです。部活動地域移行を段階的に進めていくような形になりますけれども、現状では中体連のガイドラインというものに大きな変更はないような状況です。大会出場するためには、ガイドラインの遵守というものが必要になっていまして、既に活動されているような地域クラブに関しては、もちろん平日の活動があるところもあると思うんですけども、平日の活動が全くなくて土日だけ活動しているというクラブも数多くありますので、そういうようなクラブが実際に受け皿になりたいと言ったときに、完全にそのガイドラインを遵守して活動できるかっていうのは注視していく必要があるのかなというふうに思っています。

続いて③の学校の施設管理になります。こちらに関しては、休日であっても現在は顧問の先生方が出勤されていて校舎内で管理している備品を使用可能だったんですけども、今後、地域クラブの指導員になったときに、学校の先生方がいない状況下では、なかなか校舎を開けて自由に出入りをして、備品の出し入れをするということが難しいのではないかなというふうに考えています。その際に、備品を体育館の方に移動することや新たな倉庫を設置したりなど、場合によっては校舎内の機械警備のエリアの変更をしていくことが必要になることも考えられます。

続いて5ページ目になります。④番から⑧番につきましては、これまでの説明の中に出てきたような課題になりますのでこちらの方は割愛させていただきます。

最後に、⑨番の困窮世帯への支援になります。今年度に関しては、市の予算で行うこととなりますので、大会の参加費などそういうものを除いて受益者負担は発生しません。ただし、今後持続可能な体制というものを構築していくためには、昨年の検討委員会の中でも話が出ているんですけども、受益者負担というものがどうしても必要になってくるかなと思います。各家庭には、これまでよりも負担が増えることとなりますので、困窮世帯への支援策が必要となります。現在の就学援助制度等にも関連してきますので、こちらは引き続きこれからになるんですけども、関係部署と連携をとりながらどういう方法があるかというものを検討していきたいと思っております。

最後、6 ページ目になります。こちらの図に関しては、今後想定される地域移行のイメージを今説明してきたところなんですけれども、それを図に表したものになります。中央にあるのが、管理運営団体となっております、今年度我孫子市が担う部分です。そこを中心として、様々な関係機関、クラブであったり学校などが連携をして地域移行後の運営に取り組むというような形でイメージ図をつけさせていただきました。こちらについては、お時間があるときにご確認いただければというふうに思います。

すみません長くなりましたが、今年度行う実証事業を通じて、今回我孫子市における地域移行の具体的な進め方というものを確立して、令和7年度以降準備を進めていく必要があります。今年度、様々な課題が出てくると思うんですけれども、子どもたちにしわ寄せが行かないように、それから他市と比べても費用の面などで差が出てこないように負担をかけないようにしなければならぬと思っていますので、今年度の実証事業を通じてそのような仕組み作りができればなと考えております。実証事業の説明については以上になります。

(藤原委員長)

はい、ありがとうございます。委員の皆様から意見をお聞きする前に、少し基本的なところの質問をさせていただきます。

この実証事業を通して、市は何を掴みたいのでしょうか？あるいは、これまでの従来の部活動指導員制度とどう違うのでしょうか？

(事務局(文))

部活動指導員に関しては、あくまで市の会計年度任用職員というような立場になりますので、大会の引率であったりそれから細かいところ言えば、生徒それぞれの管理であるということは学校と一緒にいう状況です。

それが、地域のクラブ指導員になると大会の引率それから安全の管理であったり、そういうところに対しても責任を負ってくるような違いが挙げられると考えています。

(藤原委員長)

それはその部活動指導員、その人に対してですよね。役割が少し違ってくるということですね。

部活動指導員の中には地域移行を見越して、もうその活動に近い指導をされている方もいらっしゃると思います。その方に、そのこれまでの報告実績あるいは課題そういったものを聞いた方が合理的じゃないですか？

わざわざ実証する意味、意義がどこにあるのかがもう一つ見えてきません。

例えば、令和7年度から予定されているようなイメージですよね。そうした枠組みを作っておいて、その枠組みの中で実証してみるなど、指導を与える方には、いつ頃講習を受けてもらうのかというのを枠組みの中で実証し、それが可能かどうかというのを検証した方が合理的じゃないですか？

そうでないと、これまた枠組みを新たに令和7年度から作らなきゃいけないんですよ。

これを実証事業の中で検証すると、この仕組みでいいかどうかということがわかりませんか？ じゃないと今までというか、今年度やった実証事業と令和7年度との仕組みが変わってきますよ。

そうするとまた、令和7年度で検証しないといけない。これはもう当然毎年毎年検証はしていくもんだと思うんですが、仕組み作りを先に作るっていう考えはないでしょうか？

(事務局 (文))

すいません。ちょっと説明の仕方が良くなかったかもしれないんですけども、あくまでも想定としては、この6ページ目に書いてあるような体制で進めていくというような形になります。

ただ、真ん中のところに関しては、今年度からそういうような組織でお願いするというようなことも考えたんですけども、なかなかいきなりお願いすることがちょっと難しそうというところで、まずは市の方がこの部分を担った上で、令和7年度以降はこの形で進めていきたいと現段階では考えてます。

(藤原委員長)

そうすると、令和7年度になってその管理運営団体というのを新たに募集するということになるのでしょうか？

(事務局 (文))

そうですね。現在の想定ではそういう形を想定しております。

(藤原委員長)

これを令和6年度9月から実施するという事はないでしょうか？

今年は、我孫子市が担うこととして、実質的なものは我孫子市としても、形としてこうした団体にある程度の権限を付与して、仕事をしてもらうというようなことがあってもいいんじゃないかなと思うんですが。いかがでしょうか？

(事務局 (文))

はい。具体的な話でいいますと、こういう形のマネジメントができないかどうかというのは、市内の団体の方にあたってみてはいるんですけども、やはりどれぐらいの力量がそこにかかるのかというのが見えない中では、いきなりそれを受けることはできないということで、まずこういった実証事業を通じて、どういう事務的なところを担わなければいけないのか、それに関わる人はどれぐらいなのかというのは、検証した上でないといきなりはちょっと受けられないというお話がありまして、今回はいわゆる直営というんですかね、事務局的なものについては市の方で担ってその精査をしたいというところになります。

(藤原委員長)

はい。それでは、委員の皆様から意見を頂戴したいと思います。

(中村委員)

今委員長がおっしゃったように、7年度以降の形っていうのを想定した上で、そのフレームワークの中で準備をしていくという考え方をするのが一番いいと思ってるんですけども、今この管理運営団体を我孫子市の中で担ってくれる団体を募集しても多分現れないんじゃないかと私は思ってます。少なくともスポーツ協会は無理です。

スポーツ少年団の方はわかりません。あと、総合型地域スポーツクラブでやってくれる方がいるか、スポーツ推進委員とスポーツの関連組織っていうのは、今四つしかないんですね。

こういう組織が四つ統合化され一つの組織になって、それに取り組むというような形が模索できれば、今からスタートするのも一つだと思うんですけども、結局今我孫子

市のスポーツ行政の中で各スポーツ関連団体の動きというのは、残念ながらそれぞれの組織の価値観と、使命感で動いている状態の中で、その四つの団体が部活動地域移行をするにあたって、この管理運営団体として名乗り上げようかどうかという検討することを、まだできてないと思うんですね。

そういう意味で、来年度になっても多分名乗り上げる場所は出てこないんじゃないかというのが私の考えです。

それから、8年度も9年度も我孫子市が担っていくと、その覚悟があればこれでいいと思うんですけども、多分来年度移行したいと言っても移行できる組織はないんじゃないかというのが私のちょっと懸念です。

勝手に言ってすみません、近藤さんの意見もちょうと聞いてください。

(近藤委員)

正直難しいですね。どういう形になるかわかりませんが、具体的な仕事が見えてこないんで、今年度我孫子市がやられて今のところスポーツ少年団単独でやるというのはちょっと無理な話で、いろんな組織が一緒になってやるということを考えて、スポーツ少年団の中でも検討していきます。

令和6年度は我孫子市が担うということで、1年間で作っていかなくちゃいけないので、そのときには協力したいと考えています。

(藤原委員長)

昨年から会議が始まりましたけど、その前に一度事務局と私の方で少し打ち合わせをしたことがあるんですが、私からすると、この管理運営団体は我孫子市がすべきだというふうに思っています。

その中で、我孫子市の職員の皆様が全部やるのではなくて、会議を持って決めていくようなシステムをとったらどうかということを提案したんですが、市の方の仕事が手一杯だということで、こうした民間団体、民間の組織に委ねたらどうかというようなご提案だったというふうに思います。

(中村委員)

ただ、出てこないというのはちょっと大変で、勝手なことを言ってちょっと混乱させて申し訳ないんですが、もしも受け皿になってやるとしたら早めに準備をして立ち上

げていかないと難しいというのは私の意見で、多分スポーツ協会が第1候補になると思うんですね、この中でそうした場合にスポーツ協会として何がどうできるかというのを早めに考えていかなきゃいけない状況なんですけど、まだスポーツ協会は組織として全ての理事に諮ったわけでもないし、組織としての動きが始まったわけでもないんで、ここでは私がスポーツ協会の会長として個人の意見を言っているだけにすぎないんですね。

そういう意味では、スポーツ協会としての考えをまとめて話ができるようにしていきたいと思ってるのが今なんですけども、一番大事なことは、実証事業は実証事業、その後のことはその後のことと絶対考えてはいけないことなので、実証事業でやった形が令和7年度以降もひな形になって続いていく形をとるには、継続性がきちっと持てる組織、運営団体が保障されていかないとうまくいかないなというのは一つなんです。委員長がおっしゃるように、何から何まで全てをある団体が受けるとするのはなかなか難しいことがあるのではないかと思います。

学校との調整もありますし、他のスポーツ関係団体との調整もありますし、特に私が一番悩むだろうと思っているのは、少年団との関係をどうするかとか、総合型地域スポーツクラブの皆さんとの関係をどうするかとか、それからあとスポーツ推進委員として推進を図っている方たちとの関係をどういうふうに進めていったらいいのかとか、その辺の考えになっていくといろいろ難しい問題も残るので、教育委員会の方が手を引いた後、全体を含めてやってくださいと言われたときには、引き受けていける人材も組織もなかなか見当たらないんじゃないかという心配を申し上げたわけです。そういう意味では、ただ単に指導者の派遣をしてくれる団体を募りますというのであれば何の問題もないんですけども、それ以外のことを含めて、継続可能な団体や運営をしていくフレームワークを作って、来年も再来年も中学校の皆さんが部活を問題なくできるようにしていくなんていう命題になると、丸教育長も一番心配してると思うんですけど、質が落ちないかとかその辺のことをしっかりと睨んで、行政が管理していかないと難しい部分もありますよというのを申し上げたい。

全てを丸投げで民間委託しちゃうとか丸投げでスポーツ協会に投げてしまうなどという選択肢だけではなくて、ある一定の範囲の機能については、我孫子市が担った上で適切な役割機能を果たせる関係団体がいくつもありますから、そこをうまく使って、進めていこうではないかというような辺りの意見が私の意見だと思って聞いてください。スポーツ協会が嫌だとか良いとか言ってる話はないです。

これから考える話なので、ただ我孫子市のスポーツ関係団体が四つあるので、その中でどういうふうに進めていくかということも、スポーツに関しては、大変な調整事項ではないかと思います。よろしくお願いします。

(藤原委員長)

はい。おっしゃる通りだと思います。さらに、そこにスポーツだけではなくて文化部が加わるわけですので、この管理運営団体そういった複合的に活躍できる団体でいろいろなマネジメントコーディネートができる団体であり、人材を有していないと回らないということですね。

はい。私の方で先に質問して混乱させてしまいましたが、他にご意見ございますか。

(川田委員)

すいません。中学校の保護者です。今のお話の中で僕の頭の中自体が、少し混乱してるので整理も兼ねてお聞きしたいのですが、基本的に子どもたちは、月曜日から金曜日まで部活をやります。土日に移行します。

これはもう間違いないですよ。基本的には、その部活動指導員という方が、月曜日から金曜日までを受け持っていたら、休日をいわゆるクラブチームだとかに受け持っていていただくというのは理解できるんですけども、大会等の引率なんですけれども、僕の頭の中では、部活の中でやって地域に移行するわけなので、今までの学校というか中体連の主催のものだけだと思ってたんです。

ですから新人戦ですとか、葛南大会ですとか今まで子どもたちが参加してた吹奏楽だと7月とか8月にあるコンクールのものだと思ってるんです。

今の話の中では、そのクラブチームに所属したら、クラブチームの大会にも出るということなのでしょうか？

そこが混乱しているので、お聞きしたい部分とスポーツ団体やクラブチーム受け皿をお願いしなくてはいけないので、僕はその辺は正直言いますと全然わからないのでお任せするしかないんですけども、保護者として思うのですが、クラブチームとしてやるのであれば、最初からクラブチームに入ってるような気がするんです。別に、学校の部活に所属してなくてもクラブチームに入っているならクラブチームの大会に出ればいいんじゃないのかなと保護者からすると思うんです。

ですから、子どもたちや家庭に対して、どの方向に向きたいのかがちょっとわからなくて、それこそ今あるクラブチームがもちろん受け入れてくれるというようになれば、そのクラブチームに全員が入らなきゃいけないのか。それとも、やりたい子だけが土日所属すればいいのか。

そうになってしまうと、最初からもう入ってるんじゃないのかなという部分もあって、それこそ新人戦があります、夏になると葛南がありますとか、駅伝で東葛駅伝があることで頑張るために、子どもたちは部活をやっているのではないのかなと、もちろん地域移行になってフォームが良くなったり、球が速くなったとかその子どもたちはもちろん自分たちにとって、プラスな部分というのは絶対あると思うんですけども、地域移行をしても、今まで通りの大会に出て結果を残せばというようなニュアンスで僕は捉えていたので、例えばその地域移行でクラブに入ってどこかで大会があってその大会が土日だったら、学校の大会と重なってしまうのではないかとかそういうものを思ってしまうと、損得じゃないですけども、どこに向きたいのかなというのを思ってしまうと、部活動指導員をいっぱい集めて、月曜日から金曜日までやっていただいて、それによって先生方が少しでも楽になりますというのはものすごくわかるんです。

前回の鈴木先生の最後の話を聞いて思ったのが、それだったら今のままの部活でいいんじゃないのかなと、その中で部活動の指導員さんを設けて入っていただいて、その部活動指導員さんの中で、今度の土曜日はどこの学校でやらないかなどの方が僕は建設的なのではないかなと思うんです。

(藤原委員長)

ごめんなさい。まず一回事務局答えられるところでお願いします。

(事務局 (指))

はい。まず、部活動指導員を平日入れるということに関しては、休日を移行するので、今のところは想定していません。元々休日の部活動顧問に代わってできるようにという制度です。もちろん平日変われるというのがあればいいんですが、それができる方が平日 15 時から 17 時、18 時ぐらいまでの間いるかと言われるとなかなか難しいところです。今現在、一部平日顧問に代わってやっていただいている方も実際はいます。クラブチームの大会にということなんですが、このクラブチームという考え方もいくつかの違いがあると思うんですけども、高い月謝を払って土曜日日曜日ある程度

長い時間、あるいは平日の放課後、夜などに活動していろんな大会に出てそれなりの練習量、練習時間を持って取り組むというトップレベルを目指していくクラブチームという考え方ではなくて、誰しものが競技であったりスポーツだったり音楽であったり親しむことができるという地域クラブです。そこには、もちろん部活動と地域クラブのガイドラインが示されているので、そこに則って行う地域クラブだと思うんですね。今、大会にどうするかということで、人事交流で柏から帰ってきた先生方も今我孫子市にも増えてきていて、その実情を聞くと、結局今のところ中体連の大会は学校で出るところが多いと聞いています。学校として出てるのかクラブとして出てるのかごちゃごちゃになって、わからなくなるというところの線引きは、この後しっかりしなければいけないのかなというふうには思います。ですが、実際、中体連はもう我孫子市で認めている地域クラブであれば総体いわゆる県大会、全国大会にまで出ることができます。いわゆるプロレベルで、別のところでやっているようなクラブというのは、また別の大会に出ているというような形だと思います。

(藤原委員長)

はい。ありがとうございます。その他の意見ございますか？

(川端委員)

2 ページの (2) の受け入れクラブの募集、選考で、市内の部活動のうち、1 から 4 部活程度を以下の方法で地域移行すると書かれているのですが、要は地域ということは我孫子市全体をしてるのか、それとも前にお話したように、各中学校で、クラブ活動を活発にやっているとところか、数の多いところを重点にやっていくのかというのは地域で移行するというとどの部活を重点に考えて良いか、全然わかんないですよ。一つであれば、部活動の少ない学校の一つだけを重点にやるのかなど、どの地域を重点にやるのか、もしくはクラブの何の種目を重点にやるかが抽象的になってしまって、わからない気がするんですけどね。

(事務局 (文))

はい。特定の競技をやりますというよりは、何々中の何々部を移行しますというような形になります。ですので、例えば我孫子中の陸上部を移行するというふうになったときに、市内全域の陸上部が地域移行するわけではなくて、その中学校の特定の部活動というような考え方になります。ただし、部活を移行するときに隣の中学校の方でも人数が少なくなってきた、顧問の先生も休日地域移行できるのであればしたいと

いう意向があれば中学校同士で一つにするというような形はあり得るかなと思います。

ただ、先ほどおっしゃっていた通り横長になるので、湖北中の子が白山中に行ってしまうのはまず無理だと思うので、できる範囲のところでは統合しながらというのはあり得るかなと思います。なので、今年度に関してはどこの地域というのではなくて、どこの中学校のどこかの部活動というような考えになります。

(川端委員)

具体的にどこをするかをもう決めていかないといけないですよ。第1回目のときに、既存の学校がどういうクラブの数で何人いるか載ってますよね。もう少し何かポイントを掴んでいかないと思います。

(事務局(文))

ある程度、目星となるような部活動というものは、現在部活動指導員がもう既に入っていて、土日の活動も部活動指導員の方だけでやっているようなクラブがいくつもある中で、もうお任せして一つのクラブとして運営できるというところがあります。そういうクラブが、今4部活程度あるというところで、それが我孫子市の中のどの地域というところまではいってないんですけども、目星はつけているような状況であります。

(藤原委員長)

その中に文化部は入っていますか？

(事務局(文))

はい。今年度に関しては、まだ文化の方はなかなか検討が進め切れていないような状況で、現在は運動部からというような形になってます。

文化部活動につきましては、まず一番大きなところで言うと、吹奏楽と合唱というのがまず生徒さんの数からしても多いと思うんですね。それについては、前回の会議以降に指導者としてやっていただけるような地域団体があるのかどうかというのをこちらの方で当たってみました。実際に合唱されてる方々と、それからフィルハーモニーのところとお話をしたんですが、団体さんのお話ですと、合唱というのは会員それぞれで研鑽を積まれてるんですけども、指導者というのは別のところから音楽の専門家

の人に来ていただいている状況なので、自分たちは指導という形は難しいですというお話をされてきました。

もちろん高い報酬を払ったり、時間を調整することによって都内や音楽大学の先生に来てもらうことはできるが、継続的に毎日やるとか、毎週やるというのは厳しいのではないかというお話を受けてます。

それから、フィルハーモニーの方に関しては、それぞれの楽器パートの中では皆さん研鑽を積んでいるので、ある程度若手の方に教えることはできます。ただ、それを総合的に見るような形での指導者というのは、自分たちは担いきれないので、例えば今までだとピアノの先生が全体を見てみたいなところを弦楽器の方がそこに入って、あるいは管楽器の方がそこに入って、よりブラッシュアップをするような形での協力というのはできますという話を受けているところです。ですので、クラブ全体を指導をするという形では市民の関わりは今のところはなかなか難しいというのが現状としてあり、スポーツ団体よりもかなり担い手としての数は少ないなというのが実感としてあります。ただ、先進的に進んでいる柏市の事例等についてももう少し研究する必要があるかと思っております。

あとは、既存の部活動の括りにないものとして、文化連盟さんがされてるような部活動にないようなもの、伝統芸能であるとか生花だとかお茶だとかというものに関して言えば、指導してくださる方はいるので、それは今年度様々なイベントを打つ中で、中学生の参加などもしていただき、こういった形であればそれが噛めるのかというのは、その中で動かしながら来年度に向けてもう少し形を作っていきたいと考えています。

(藤原委員長)

はい。ありがとうございました。逆に提案してもいいですね。事務局の方から生徒さんに向けて、こういう部活動どうですかなど、特に文化的なものに関しては。

(中村委員)

実証事業の推進に関して戻したいと思うんですけど、2ページの一番上のところに受け入れクラブの募集、選考と一番大事なところがあるんですけども、このタイトルの意味というのは、生徒さんを受け入れてくれるクラブを募集してますという意味なんですか？それとも先生の派遣、指導者の派遣を受け入れてくれるクラブを募集しますということなんでしょうか？

(事務局 (文))

はい。パターンがあると思うんですけども、現在の部活動指導員の方がそのまま地域クラブの指導員として活動する場合には、派遣とか選考というものの対象にはならないと思いますが、既に活動しているようなクラブに、それを受け入れてもらうというふうになったときは、無条件でお願いしますというわけにはいかないと思うので、スポーツ協会の傘下にいるクラブであったり、スポーツ少年団に入っているクラブを各協会等から推薦してもらうというような意味になります。

(中村委員)

推薦してもらったクラブに対してお願いすることというのは、中学校のある種目を例えば 30 人部員がいますけど、受け入れてくれますか？というお願いですか？それともその 30 人の指導をそのクラブの指導者の人が土日に来て、受け持ってくれますか？というお願いどちらが狙いですか？

(事務局 (文))

あくまでも、そのクラブ自体が受け入れますというようなことが前提であったときに、そのクラブを推薦してくださいということで推薦してもらうような形になるので、そのまま生徒を受け入れてもらうような形になります。

(中村委員)

スポーツ協会の立場で言うと、中学生を会員として受け入れて活動しているクラブというのは基本的にないんで、そこに中学生を受け入れてくださいと言ったときに手が上がるクラブは一つもないんですね。やるとすれば、新しいクラブを作って、それをスポーツ協会の中で一つのクラブとして認めて、そこに受け入れていくというような形をとっていかない限り、ここで推薦していただきたいと言っても、既存のクラブにこだわってしまうとできないですが、その辺はどう考えたらいいですか？

(事務局 (文))

もちろん新しく立ち上がるクラブということも、それは可能性としてあるかと思えます。既存のクラブに限定しているというわけではないです。

(中村委員)

そういう意味では、今推薦を受ける対象組織としてスポーツ協会、少年団等となっ

ていますが、ちょっと明示的に総合型地域スポーツクラブですとかそういうものが入っていると推薦を受け入れやすいのではないですか？まさに、推薦してもらう一番適切なクラブは総合型地域スポーツクラブなんですよ。どんな人でもどんな種目でも受け入れてやりますというクラブになるので、そこが中心になっていかないとできないですよ。そういう意味で、まず一番最初に総合型地域スポーツクラブというのがあって、あとスポーツ推進委員連絡協議会がどういう形で携わってきたかわかりませんが、市のスポーツ活動を進めていこうというときに、新しい課題が出てきたわけですから、そこにいる指導者の方などはどういうふうに参加するのか、希望を出してもらった方がいいと思うので、その四つの団体がここに来ているので、その団体名くらいはこの中に入れてほしいと思います。

（事務局（文））

すいません。まとめて表記してしまっているのですが、大変申し訳ないところなんですけれども、もちろん総合型地域スポーツクラブに関しても、受け入れ体制が整うということであれば、それは可能性として出てくると思います。スポーツ推進委員に関しては、クラブチームなどそういうチームというのではなくて、あくまでも指導員派遣というものの組織になりますので、委員の推薦ということとして可能性はあるかなと思います。

（中村委員）

そういう意味で、今やっていかななくてはならないのが外部指導員として、適切な人をどんどん中学校に配置していき、目標の60人に達成していくような動きを一方でしながら、実証事業として受け入れ可能なクラブを育成していくことだと考えてるんですけど、その一つの良いきっかけが今回の実証事業だとすれば、できるだけ現実的に進められるような形で考えていきたいと思うので、よろしくお願いします。

（近藤委員）

それに伴いまして、指導者の条件について12月に指導者養成講習会をやられるということなんですが、この内容はいつ頃発表されますか？我々は、今どういう資格があるのかわからないところがあるので、ある程度準備をしておかないといけないと思います。

(事務局 (文))

はい。こちらに関しては毎年行っていて、今まではコーチングアシスタントと呼ばれていて、基礎となる資格になります。令和5年度から名称が変更になりまして、そこに部活動地域移行に関することが入ってくると記載はあります。実際にいつ行うというのがまだ記載がありません。ただ、我孫子で行う時期に関しては、12月で予定はしているので、例年10月前後に参加者の募集をかけていく形になります。

(近藤委員)

スポーツの資格もかなり変わってきているので、そこを含めて案内を頂ければと思います。

(上坂委員)

上坂です。質問を2点させていただきます。

先ほど中村さんおっしゃった通り、部活動指導員など外部指導員を増やすことがまず必要かなというふうに思うんですが、現在24名部活動指導員いらっしゃいますが、この方たちが地域移行の地域クラブになったときにも、地域クラブ指導員としてやっていただけるかどうかという意向の調査みたいなものは、ヒアリングレベルかもしれないですが、やっていらっしゃるんでしょうか？というのが一点ですね。責任の範疇が大きく変わってくるので、今までは競技の技術指導を目的で指導をしていたものが、地域クラブの指導員になった途端に、保護者対応などですね、そういう緊急時の責任とかそういったものまでのしかかってくるということで、他市の例なんですけど、地域クラブになったときには、やれませんかというような方が結構多かったんで、今から60人70人目指すのであれば、それも踏まえて調べていらっしゃるんでしょうか？ということです。

次に兼業を希望される教員の方の調査というのはされていらっしゃいますでしょうか？というのが2点目ですね。付随して、我孫子市としては兼職兼業で教員の方が、その地域クラブの指導者になっていくということを推奨とかウェルカムな姿勢なのかどうかというのを確認したいと思います。以上です。

(事務局 (指))

はい。部活動指導員は顧問に変わって部活動を単独で指導していくということが前提で配置をしています。もちろん顧問の方からたった1人で全て担うというのは、急

にはできないので、少しずつ時間をかけながら校内での活動時に半分の時間は担うなど段階を追って対応し指導をしてくださいというふうをお願いをしているところで。実際に地域移行した際に、この方々が指導者に必ずなってくれるかどうかというところをしっかりと調査をしたわけではありませんが、任用する際、あるいは年度で4月にまた更新する際には、その話を各部活動指導員にはさせていただいています。我孫子市として今年で言えば、実証事業をしていきますと、目指しているのは何年度ですとこのときに指導者になっていただきたいというお願いをしながら、増やしているあるいは部活動指導員はやはり会社の関係で兼業ができないという方もいるので、その方々も何らかの形で関わって、学校の方には入って行ってくださいと。いろいろ希望があれば、私の方からも学校長に連絡をして、受け入れてくださいというような話をしながら、その先のこともお子さんが今中学校にいるからなどということだけではなく、卒業した後も、学校のことを見ていただきたいということで、進めているところです。あと教員の兼職についての調査は、前回の2月のときにも出していますので、実際にそんなに人数として多いわけではないですが、教員の兼職に頼るということが前提であってはいけないのかなとはもちろん思います、しかし、中学校の教員でやはり子供たちに部活動の指導をして、競技をやり、音楽の楽しさを教えるというところを生きがいに行っている教員も中にはいますので、そういう先生方も一緒に地域の方と活躍できるような仕組みを整えていく必要があると思います。

(川田委員)

部活の1から4部活程度を移行するとのお話だったんですけども、実際に何中の何部ですか？

(事務局(文))

現在、想定しているのは、白山中の陸上部、こちらは部活動指導員としてずっと入っておられる方で、ご本人に関してもある程度受け入れ体制というのは整えているっというような形になります。

あとは、場所などの調整は必要になってくるかと思いますが、白山中の卓球男女になります。最後の一つは、湖北台地区の野球で、これに関してはこれからクラブの方とも話をしなければならないんですけども、もう実際に湖北台中の野球部がこの夏で廃部になる予定です。布佐地区に関しては、もう既に廃部になっていたりして、その地区に今通ってる子どもたちは、もう既にそのクラブの方に今入っているよ

うな状況なので、湖北台地区の野球になります。

(藤原委員長)

会議の時間を少し過ぎておりますが、他にありますでしょうか。

(藤間委員)

文化連盟の存在を気遣いいただきありがとうございます。文化芸術はスポーツと違って大会を競うものではなく、あくまで習い事の一環であると考えております。それで提案として、まずクラブ活動としていきなり固定するのではなく、ワークショップのような形でいくつか学校の方にワークショップを作って、そこで文化芸術に触っていただく、感じていただく、見ていただくそういうことができたらいいかなと考えております。以上です。

(藤原委員長)

その他よろしいでしょうか？

最後に委員長からですね、やはり(2)の受け入れクラブの募集、選考のところはどうしてもちょっと引っかかっております。指導者の派遣ということとはちょっと別ということをおっしゃられましたよね。

(事務局(文))

派遣が別というわけではなくて、派遣も含めてということを考えてます。

(藤原委員長)

はい。そうするとですね、クラブにお願いをしてお願いをした立場で、その指導者を講習会に出てくださいと頼むのは、失礼なような気がするんです。

(事務局(文))

はい。講習会の参加に関しては、あくまでも新たにやっていただくような想定をしていて、どこまでの方に受けていただくかというのは、これから考える必要があるかなと思うんですけども、それこそ今委員長がおっしゃったような既にやられているクラブもそうですし、例えば教員の方で兼職兼業でやりたいとなったときに子どもの接し方などというのは、一番わかっている方たちなので、そういう方たちも全て対象になるのかと言われると、そこは考える必要があると思っています。

願いを念頭に置いております。スポーツ協会の皆様におかれましては、従前よりその資格の取得であるとか講習というのはかなりされているという話は聞いておりますし、それから現在でもそういった形で地域移行していくということを前提として、協会の皆さんにその資格取得を助成したりとか投資をされてるという話を聞いておりますので、もうこういった形で指導をお願いすることにおいては、おそらく指導者としてのスキルだとかというのは磨かれた方をお願いするという形なので、スキルアップをしたいという方に関しては、それは拒む話ではないんですけども、そういった形で考えています。

(藤原委員長)

ただ、我孫子市独自のプログラムがありますよね。それはどうなんですか？

(事務局(文))

昨年度までは、それこそ独自科目というものをやっているところではあるんですけども、地域移行に特化したようなものを入れるなどそういったことも考えてはいるんですけども、まだ具体的にどういうものをというところまではちょっと考えきれていないような現状です。

(中村委員)

あと一つ、既にいろいろ頑張っていたら指導員の方たち 24 名ですか、これから増えてくると思うんですけど、そういう方たちが今回の実証事業で、ちょっと不愉快な思いであったり、そういうことのないように丁寧に、気持ちよく指導が続けられるよう、配慮して進めていただきたいというのがあります。既に実績があってやってくださってる方は父兄の方たちも十分その価値を認めて、喜んでいただいている方たちだと思うので、そこにズカズカと乗り込んで資格がないみたいな話が起きないようにやりたいのと、特に実証事業を白山中でもしやるとしたら既に 3 人ほど部活動指導員入ってます。そこに今度スポーツ協会から 4 人も指導に入ったら、スポーツ協会に所属している人としていない人が生徒を奪い合うか、指導権を奪い合うか、よくわかんないんですけどそういうことにもなりかねません。それは、やめたいと思ってるんですけど、そういう意味で長年やってくださった人たちが、あっちこっちにいてその方たちが今後も継続して行っていたらいいような考えと同時に、お子さまが学校にいるからという理由で始めた方が結構いらっしゃるんで、お子さまがいなくなった場合に、私はもう興味ないんですという形でも無理に引き止めるようなことのない

ようにしないといけないなど。教員の件もそうなんですが、他にやる人がいないから自分がやらなくてはいけないのではないかという使命感で無理をなさる方というのは、教員の方にもそういう方にも出てくるんじゃないかと、やっぱり子どもが可愛くなってしまうので、教えてると自分がいなくなったら非常に困るんじゃないかと考えてしまいます。

そういうことで、新たに頑張りましょうと来てくれる人たちとうまく融合が図れるような形でぜひ進めていただきたいと思います。実証事業を期待してますから、ぜひうまくやっていけるように皆さんの知恵をお借りしたいと思っています。よろしくお願いします。

(藤原委員長)

はい。ありがとうございます。少し時間を過ぎてしまいましたが議題の(2)この実証事業について、ご了解いただけましたでしょうか？意義はございませんでしょうか？では、これで進めるということで、ご了解いただいたものといたします。

一つお願いなのですが、やはり先ほど来その実証事業の説明を聞いていると、少しまだ漠然としすぎているような気がいたします。明確な検証ポイントというのを作って評価項目を作っていないと、ただやっただけに終わりそうな気がいたしますので、その辺事務局の方でお願いしたいと思います。

はい。次に(3)その他でございます。事務局お願いいたします。

(事務局(文))

はい。事務局から今回は、その他の議題はありません。ご協議いただきありがとうございました。

(藤原委員長)

最後に傍聴人の方の発言の機会を設けます。傍聴された方で発言をされたいという方がいれば1人1回3分以内でご発言をお願いいたします。いかがでございましょうか？

(傍聴人)

はい。すいません時間を押してる中、申し訳ないです。湖北台中学校の野球部4人が今回、夏で廃部になるということで、なおかつ、地域移行の方で湖北地区の野球部

をもしかすると検討に入れるということをおっしゃってたと思うんですけども、実際におそらくなんですけども、その4人の中の誰かが他の部活に仕方なしに移行してしまっている子がいると思うんですね。今、泣く泣くこういう状況になっていると、その中で、その野球部がまさに布佐地区も去年、ここでそういう予定があるのであれば、どこのタイミングでその子たちにアプローチができるのか、やはりその子たちが本当は野球がやりたかったのにといい子はいると思いますし、決まったら決まったで他の部活に行っちゃったからもうできないよ、みたいなところをちゃんと拾ってあげられるような感じにできるようにしてほしいなというのはあります。あと、今回僕初めて出たので、前回までの流れはわからなくて申し訳ないんですけども、地域移行で大学生なども部活で教えている自治体があるのではないかなと思うんですけども、川村学園女子さんとか中央学院大学があるので、せっかくなら地域の大学さんに、どういう感じで行くのかもわかんないですけども、そういう地域が合わせて活性化できるようにしたらというのはちょっと希望としてあります。以上です。

(藤原委員長)

ありがとうございました。他にご発言される方いらっしゃいますか？

はい、ありがとうございました。事務局の方でご検討ください。本日の議題は以上でございます。最後に事務局よりご連絡お願いいたします。

(事務局)

次第の下の方に書いてあるのですが、今後の検討委員会日程についてお伝えします。第5回が令和6年~~7月4日木曜17時~~(変更後:7月2日火曜日17時30分)、第6回が令和6年11月5日火曜17時、第7回が令和7年3月11日火曜日17時を予定しています。お忙しい中恐れ入りますが、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

(藤原委員長)

次回の検討委員会が~~7月4日~~(変更後:7月2日)の予定でございます。次回もどうぞよろしくお願いいたします。以上で本日の会議を終了させていただきます。ご出席あるいはご意見頂戴してありがとうございました。

以上